

令和5年度 第2回磐田市立図書館協議会会議録

- 日時 令和6年2月8日(木) 午後3時から午後4時15分
- 場所 磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール
- 出席者 委員：鈴木裕之、濱永慧子、小泉祐一郎、竹内恵美子、児玉恵里子、
青島公悦、松野正比呂、久永公子、西藤正江(以上敬称略)
- 事務局等：
- 中央図書館：岡本由紀子館長、高杉順也館長補佐、
長尾信貴主査、老川雪絵主任
- 竜洋図書館：鈴木康之館長
- 豊岡図書館：高橋道博館長
- にこっと：兼子順子館長
- 学校教育課：松山侑樹指導主事
- 傍聴人 0名

□内容 以下のとおり

議事(1) 令和5年度事業の取組状況について(以下、事務局)

磐田市立図書館は、中央図書館と地区館などを含めて一つの図書館という意識のもと、各種事業を実施してきました。その中で、重点を置いた取り組み、新たな取り組みを中心に説明をさせていただきます。

資料1ページをご覧ください。重点を置いた取り組みとして、【令和5年度 主要事業】の(2)にあります、前回の協議会の際に見ていただきました、昨年度導入した、ICセルフ返却機とICセルフ貸出機を、今年度、多くの利用者に活用していただけるよう案内をするとともに、セルフ機器利用強化月間(9月と10月)を設け、利用率の向上に取り組んできました。現在セルフ返却機は、利用者のほとんどの皆様が利用し、セルフ貸出機も図書貸出利用者の約40%超の方が利用しております。

また、セキュリティ対策として、貸し出し処理のされていない資料が外に出ようとしたとき、音で知らせるICセキュリティゲートを中央、福田、竜洋、にこっとの4館に設置しており、先日実施した中央図書館での蔵書点検不明本数は、昨年度178件が58件と大幅に軽減されたことはICセキュリティゲート導入の効果もあるものと考えます。また、昨年度同様図書館の情報発信に力を入れ、ホームページやインスタグラム、LINEを活用し、各図書館で実施したイベントや特設コーナーなどの写真を積極的にアップし、PRに努めています。次に、2ページをご覧ください(3)3番目の電子書籍サービスの推進事業では、新たな利用に繋げるため、図書館ツアーにおいて電子書籍利用の周知を行いました。また、今後は、ユーチューブを活用しての周知や学校関係(児童・生徒)への電子書籍サービスが利用できるよう連携を図りながら、サービスの充実を図っていきたいと考えています。資料3ページをご覧ください。今年度は、中央図書館が現在の地に移転してから30周年ということで、いくつかの記念イベントを開催しました。中央図書館開館30周年記念講演会よこただいすけさん絵本原画展やワークショップの開催、動物画家・藪内正幸さんの原画展と講演会などを開催しました。その他、福田図書館では歴史講座の開催、竜洋図書館では磐田南高校生徒による書道パフォーマンスの開催など、それぞれの館で実施したイベントなど、活動状況を抜粋して掲載しましたので、ご覧ください。併せて、今年度開館30周年を迎えました中央図書館のあゆみ、30年前の貸出ベスト5、2023年上半期の貸出ランキングベスト3も掲載しましたので、ご覧いただければと思います。

次に、「資料2」をご覧ください。各館の開館状況や資料の貸出状況など、11月末までの実績を記載し

てあります。まずは、5ページの下段の表⑧合計(ながふじ含む)をご覧ください。にこつと及びながふじ図書館を合わせた6館の入館者数等を記載してあります。初めに、中央に記載のあります利用者数についてです。これは入館者のうち図書等の貸出しをした人数となりますが、6館合わせて226,668人、前年度の同時期と比較すると約5%の増となりました。また、貸出点数については、6館合わせて791,638点で、前年度の同時期と比較するとほぼ同数となりました。次に、「資料2-2」をご覧ください。ここで、資料の訂正をさせていただきます。②利用者(貸出)一日平均の表の下の文中、貸出利用者の5館平均は、221人とありますが、225人の誤りです。221人を225人へ変更してください。誠に申し訳ありませんでした。それでは、資料の説明をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度との比較をした資料となっております。①入館者数は、昨年同時期との5館平均の比較では、若干の増加をしています。徐々に回復の傾向であるものの、にこつと以外は、新型コロナウイルス感染症流行前の水準までは回復できていない状況です。②貸出利用者数は、昨年同時期との5館平均の比較では、横ばいであり、新型コロナウイルス感染症流行前の水準までは回復しました。③貸出点数は、昨年同時期との5館平均の比較では、約4.9%と減少しており、にこつと以外は、新型コロナウイルス感染症流行前の水準までは回復できていない状況です。

まとめとして、にこつとについては、子育て世帯を中心に児童書の品揃えに加え、各種イベントや気軽に相談できる有資格者の配置など子育て支援施設としての機能が充実しており、利用者にとって利用しやすい施設であると考えられます。中央図書館と各地区の図書館については、新型コロナウイルス感染症流行前の水準までは、戻っておらず、市民の読書意欲の継続を目指し、安心・安全な図書館運営に務めていきます。なお、「資料2」の6ページ以降は、児童サービスや障害者サービス、各館の主な事業、電子図書館の状況を抜粋して掲載しましたので、ご覧いただければと思います。説明は以上となります。

〈質疑・意見〉

(委員)

にこつとの利用者が多かったのはA Iを取入れたお勧めの本について、ロボットと話ができるシステムの利用者が多かったからか。また他の図書館も導入されるのか。

(事務局)

昨年7月、子供の読書推進を一緒に行っていくということでN T Tと連携協定を結びました。

その一環としてA Iを使った本の推薦システムを入れていただいている形です。市の費用は一切発生していません。パソコン、ロボットもすべてN T Tが対応しています。まずは来年度までの協定期間は実証実験的な形で設置をしています。予算の問題もあり今後普及していくかは未定です。絵本の推薦システムですが昨年7月中旬に設置し12月時点で延べ8,000人が利用しています。多くの子供たちが興味を持ち、きっかけ作りに繋がっていると感じています。

(委員)

子供の読書活動推進事業として、読み聞かせボランティアの養成講座を毎年開催していると思いますが、それを受けた方達が、どのような活動に発展させているのか、また養成講座を受けて社会的に活かしているのでしょうか。自分自身が読み聞かせボランティアとして4つの学校に関わっていますが参加者の多くは地域の方です。熱心に養成講座を受講されている方々の社会参画がどうなっているのか教えてください。

(事務局)

ボランティアの研修会を毎年実施しています。参加の目的は自分の子供に読み聞かせするに当

たって少し勉強してみたい、また自分の趣味で参加したいという方々のため、そこまで足を伸ばせる方ばかりではありません。年に何回か繰り返し研修会を実施している中で徐々に参加していただけないか声かけをしています、良い返事をもらえるばかりではないです。協力していただける方を増やしていけたらと感じています。

議事（２）図書館評価の取組について、図書館アンケートの結果について

（以下、事務局）

磐田市立図書館図書館評価の実施について(案)

図書館法が平成20年6月に改正され、第7条の3(運営の状況に関する評価等)及び第7条の4(運営の状況に関する情報の提供)が新たに追加されました。また、図書館の設置及び運営上の望ましい基準において、地方公共団体に対して図書館経営においても経営サイクルの着実な実施と住民に対する情報提供を求めています。これらを受け、磐田市立図書館でも図書館評価として、自己点検・外部評価を平成26年度に実施しました。その後、10年間、図書館評価は実施して参りませんでした。今後、図書館のあり方や計画を立てていく上でも外部評価や指標の必要性を感じ、令和6年度から図書館評価の実施を計画しています。評価の概要をご覧ください。図書館の運営の改善と図書館サービスの向上を図るため、各年度の運営に関する取り組み項目、指標及び目標を設定し、それに基づき事業を実施し、評価を行い、結果を公表します。自己評価は評価 ABCD により評価し、その自己評価に対して外部評価として図書館協議会からの意見聴取をお願いしたいと思っています。評価サイクルは1年で、取り組み項目、評価指標及び目標値の設定、公表、実施、自己評価、外部評価を経て、その都度図書館協議会にお諮りし、公表というサイクルで実施します。アンケートは、内容について図書館運営の課題等について項目を設定しながらより多角的なご意見をいただけるように2年に1度のサイクルとしていきます。

今年度は図書館アンケートを実施しその結果を考慮しながら、令和6年度の評価指標を設定しました。

評価の公開方法は図書館の概要および図書館のホームページへの掲載を予定しております。サービス取り組み項目の具体的内容は、磐田市教育委員会の施策「磐田の教育」に掲げる図書館の施策をより具体的な項目としてあげています。

大きな基本目標1「図書館サービスの向上」、基本目標2「地域の学習資源を生かした教育活動の推進」を基に、それぞれ5項目、2項目の取り組みと具体的な内容を上げました。各項目の評価指標については「評価指標(令和6年度)案」をご覧ください。評価指標の目標値は、各数値目標の説明欄に基づき設定しています。来年度の評価の実施は令和6年11月からを予定しており、外部評価については、第3回の図書館協議会を予定しております。

今回、皆様にご意見をいただき、それを反映した内容で来年度の取り組み項目、指標を設定し、公表するとともに、事業に取り組んでまいりたいと思いますのでぜひご意見をお願いいたします。

磐田市立図書館アンケートの結果について

今回、図書館の利用傾向や今後の図書館サービスの基礎資料とすることを目的に実施しました。調査期間は、令和5年8月18日から9月15日までの約1か月間、全図書館と にこっと において実施しました。回収結果は各館への用紙提出によるものが合計494件、WEBによるものが、1,042件合計、1,536件の回答をいただきました。3ページよりアンケート結果の分析を掲載しております。図書館の利用状況についてですが、図書館は幅広い年代の方々が利用されていますが、10代と20代の方の利用が少ないことが分かりました。また、図書館を「利用していない」という方が、249人あり、そのうち50代が最も多い結果となりました。「利用していない」方へ理由を聞いてみた中で、最も多い結果が、「本、雑誌

は、買って読む」という回答が多く、また、次に多いのは「本を読まない」という回答が多く、今後の図書館利用を推進していく上での課題であると感じます。図書館サービスについてですが、来館目的については、「本などを借りる・返す」や「本や新聞・雑誌を読む」「調べもの・勉強など」が多く、図書館の基本的な利用が多くなっています。8ページをご覧ください。利用者が図書館に望むサービスは、「新刊本や話題の本の充実」「図書館蔵書全体の充実」が多くの利用者が望んでいることが分かります。次に9ページをご覧ください。図書館の施設についてですが、「ゆっくりくつろげる閲覧スペース」「調べものや勉強ができるスペース」「館内に飲食ができるスペース」などが多くの回答を得ており、滞在型や居心地の良い図書館が求められており、また、「居場所」としての役割も担えるものと考えます。いずれにしても、今後の施設の在り方を検討する上での課題であると感じます。次に、10ページをご覧ください。図書館の全体的な満足度についてですが、「満足」「ほぼ満足」の割合が、64%となっており、今後、利用者の満足度を高めていく必要があると考えます。17ページをご覧ください。「その他」自由意見ですが、非常に多くのご意見をいただきました。職員対応については、概ね良好なご意見をいただき今後も継続していきたいと考えます。「施設、設備について」は、ICタグの導入に概ね良好な意見が多く、また、豊岡図書館に関するご意見もあり、今後の参考としていきたいと考えております。今回のアンケート実施により図書館に対する多くの意見や提案があり、非常にありがたいと感じており、今後役に立てていきたいと考えております。

また、今後は、2年毎、ポイントを絞ったアンケートを実施していく予定ですが、図書館を利用していない方のご意見をもっと多く取り入れるためには、アンケート方法についても改善していきたいと考えます。

〈質疑・意見〉

(委員)

保育園でも読み聞かせをするため本を借りに図書館に行きます。やはりアンケート結果にあるとおり借りる返すが主になります。お願いしたい事は本を借りたが折込部分が取れそうになっている本があり、修理をしっかりと行っていただきたいと思いました。図書館と学校の図書室、比較にはなりません、本を借りる返す、調べ物をするという所は同じです。コロナが明けて子供達が図書室に戻ってきました。学校図書室の充実も、アンケート結果にある、くつろげるスペースなどの充実という点では図書館と同じと感じました。

(委員)

まずは新刊本の充実を望みます。アンケートにある、「車があるうちは行けるが無いといけない。出向いてくれるといいな」という意見について、自分の地元が山奥の田舎のため小学校に移動図書館が来ます。小学校の子供達、近所のお年寄りの方々が本の貸し借りをを行います。難しい部分はあると思いますがお年寄りの方々の事を考えると移動図書館の検討も必要かと思えます。子供の本の充実について不思議に感じたのは、事業報告の利用状況を見ると7、8月の利用者が増えています。学校が休みだから利用者が多いのか、また暑いから図書館の利用が多いのか、色々な要素があるとは思いますがヒントになるのではと感じました。

(委員)

自分の人生を振り返ってみると学生時代は図書館に行きました。就職し仕事をしている時期は図書館に行かなかったです。本は買って読むものという時代でした。現在も調べ物のために図書館は行きますが本を借りる事はしないです。今後は図書館で借りて本を読むようになると思えます。アンケートのあなたが望む施設はどのような施設ですかという問いについて、子供や学生等

年齢の若い世代の居場所と年齢の高い方の居場所の必要性が分かります。そういう所を市民は必要としているのではとアンケートから感じました。またアンケートにもありましたが豊岡図書館について、どこに住んでいても居場所は必要であり文化的な居場所も大事だと感じます。山間部でも都会でもそこに住んでいる方々の居場所は必要です。調べ物は地元の図書館でないと資料が無いので、中央図書館の機能的役割として郷土資料を置いてしっかり整備をすることが必要だと思います。各館の色付けをして運営をすることが重要だと思います。評価指標について、数値だけでなく、難しいとは思いますが利用者がどう思っているかの評価についても作成していただくと将来に繋がるのではないかと思います。

(委員)

図書館評価について、専門的になりますが、正確に言うと評価指標という言葉はありません。行政が使用する言語になります。指標という言葉はありますが、物差しという意味になります。指標が重要ではなく、主な取り組みが一番重要になります。次に主な取組に対する取組内容が重要になります。取組の進捗状況が物差しである指標になり、現状や目標という形になります。物差しは点検・分析している状態のためすぐ評価するのではなく、本当にこれでいいのか悪いのか、それぞれ目標値を達成しているか状況は見ますが、全体で評価することが大事です。重要なことは取組を次に繋げること。改善に繋げることが目的であります。日本は評価に力が入り過ぎていて感じます。評価を重くしすぎて指標をどうするかの方が目的になってしまう可能性があります。量的な評価以外に量では計れないものをアンケートなどで計る必要があると思います。郷土資料は図書館に行かないと見ることができない資料なので、力を入れていただきたいと思います。電子書籍については、競争するのではなく電子の部分と一緒に、子供達や高齢者の方々のために図書館に行かないと見れない物にも力を入れる事が必要と感じます。施設への要望は、他の施設との連携を含め、とても参考になると思います。

(事務局)

これからこの評価について、お話の中にあつた言葉による評価についてもつけ加えながら検討していきたいと思っています。ご意見ありがとうございました。

(委員)

ヤングアダルトコーナーが書籍の配置だけですが、傍で本等読める空間を作っていただけると本を選びやすく過ごしやすくなるのではと思います。岐阜県のメディアコスモスという図書館は参考になりました。

子供たちの学習スペースのわきに、ヤングアダルトコーナーの様に書籍が配置してありました。設備を改修する事になるので大変な事だと思います。アンケートにもありますが、「車があるうちは行けるが無いといけない。出向いてくれるといいなあ」と思っている方々や足腰が悪くなり近所の公会堂までは行けるがそれ以上は行けない方々のために、最近杏林堂などが行っている必要な物を自宅あるいは公会堂まで届けてくれる移動スーパーの様に、移動図書館として出向く事は実施できるのではと感じました。また交流センターと小学校は併設しているので、交流センターを活用できればいいと感じました。学校はもちろん会社の中にも図書館がある今、市の書籍がサークル活動や地域活動を行っている場所にあると本を利用する機会が増えると思います。頑張っている人達の近くに書籍があるような環境作りが本の利用に繋がると思います。そして、その場に読みたい本が無ければ図書館に借りに行ったり、検索したり、調べに行ったりと次に繋がって

くと思います。そういう環境が大事だと感じます。

(委員)

アンケートの中で職業別回答を見ると小中学生が少ないのは学校図書館があり、そこで借りる事が出来るから少ないという理由ならいいと思いました。居場所についてですが11月に参加した県図書館大会の第5分科会の中で話がありました。学校図書館が教室に入れにくい子、集団の中にいると疲れてしまう子のほっとする居場所、役割になっているという話がありました。実際ながふじ図書館でも教室に入りにくい子が親子で過ごしている事があります。それが出来るのは司書が常駐しているからだだと思います。学校図書館では図書室に授業時間に職員が必ず1人居るということは出来ないの、誰か必ず居るという事はありがたいと感じました。学校でも学校司書が常駐できるようになって欲しいと思います。図書館と学校図書館の目指すところ、役割は少し違うと感じました。ながふじ図書館は学校図書館であるため学校図書館としての役割がしっかり機能しているか振り返り、足りない所は何が出来るかという所から考えたいと思います。子供達に付けたい力、これからの時代の子供達に必要な事も考えながら、出来る事を学校図書館からもアプローチしていきたいと思います。そのためにも学校司書の常駐が必要と感じます。

〈感想〉

(委員)

図書館は色々な企画をたてています。沢山の企画の中で少ししか参加できませんでした。そして新刊本がよく入っています。しかし新刊本の案内が図書館だよりなどに掲載されているので読みたい本の作者の初期の本を検索すると無い事があります。廃棄、除籍されている本が多いのではないかと気になります。また廃棄、除籍された本はどうされているのでしょうか。書庫にしまっているのか、リユース市に出しているのか気になります。また蔵書について、途中とばしている事があります。7、8冊まで読んでいた文庫が十何巻まで飛んでいました。今ある巻を確認しないで蔵書するのはどうかと感じました。

(委員)

親子の読み聞かせの普及に努めていますが、アンケートの中で30代と10代の利用頻度が同じ位で20代が減っています。大学生で足が伸びにくい世代と感じますが、この世代の子が親になった時に同じデータになるのではと危機感を感じます。今幼稚園、小学生の子供達に、今のうちに力を入れていきたいと感じました。

(委員)

大学入学して1年目に基礎ゼミがあり、本を紹介する事を行います。

自分が他の人に紹介したい本を用意し、自己紹介を兼ねてその本を紹介するのですが、時間が足りなくなります。普段無口な生徒が、時間が足りなくなるくらい話をします。それほど人に紹介したい本に出会っているということが分かります。また人に紹介する事は効果があります。

図書館と大学は連携をしています。2階に放送大学の教材を置いてありますが今は過去の分も含めテレビでみることが出来るため来年度閉めることになりました。図書館を一般開放していますが、2階を新しい形での利用方法を検討していきたいと考えています。

(委員)

昨年1年生の担任時、クラスでビブリオバトルを行いました。半数以上の子が家から自分の好きな本を持ってきて紹介しました。家で読み聞かせをしている本、思い出のある本を紹介できるという事は素敵なことだと感じました。現在まで図書館協議会の存在を知らなかったです。委員として県図書館大会に参加する事ができ、とてもありがたく思いました。分科会の話がとても参考になりました。アップデートしていく必要があると、新しい視点に気付くことができました。

磐田地区教研学校図書館部部长として研究部会で提案することができました。

(委員)

今の学校に配属されて1年になります。図書室に白黒の古い写真が飾ってあります。大正15年頃の写真で、青年会でお金を出し合って建築した図書館の記念写真です。厳しい中でもお金を出し合って建てたかった青年会の人達の、学ぼうという思いが建物に込められていると感じました。昔の人達の意気込みが分かる写真ですので大切に飾っておきたいと思えますし、子供達にも伝えていきたいと思いました。図書館の大切さはこれからも続いていくと感じました。

(委員)

古本市のイベントを行っていますが、必ず店長のお薦め本の紹介コーナーを各出店の店長にお願いをしています。また親子で参加する方にもお願いをするとお父さんお母さん、そして子供も自分のお薦めの本を紹介してくれます。子供達のお薦め本は大人も興味を引きます。この様に自分の好きな物を話しをする機会を図書館でも作っていく事ができたら、楽しいイベントになると感じました。私立図書館が増えていますが、草薙のランドでもみんなの図書館(小さな図書館)が開かれます。1人1冊お薦め本を持ち合い、小さな図書コーナーに飾るというワークショップが開催されます。この様に町のあちらこちらにライブラリーができると面白いと感じました。

(委員)

指標の中で日本語以外の言語を母国語とする市民へのサービスのため外国語資料の収集、整備に努めますとあります。また磐田市も多文化共生をうたっていますが、アンケートから外国の方がどう利用しているのか、アンケートにどう回答しているかなどが分からないです。今後図書館はどう図っていくのでしょうか。アクションを起こし収集、整備に努めるのは良い事ですが、次にどう利用者に繋げていくのか読み取ることができないです。磐田市も外国人の人口が増えていきます。外国人の方とどう共生するか、磐田市民の課題でもありますが、資料を集め整備し、どこの方が利用するのか市民サービスを平等にすることも図書館の課題であると感じます。多くの外国人が暮らす磐田だからできる事があるといいと感じます。そして郷土資料をどの様に市民に分かり易く伝え、興味を持ってもらう努力を、どこまで出来ているか気になります。

(委員)

今、時代が大きく変化している時です。中央図書館は30周年を迎えましたが、大体の建物は40年から50年で建替えや取壊し、いくつかの施設を複合化して建てる事を求められている時代になっています。図書館もそうです。豊岡図書館は真剣に考える時期になっています。移動図書館の話が出ましたが、市民がどうしたら本に接して豊かな生活を送ることができるかを考える事が大事です。固定観念にとらわれた考えは検討するべきではないと感じます。次にDXについて

てです。コンピュータやインターネットが普及され、10年前は図書館で調べ物をしていた時代が、今はインターネットで簡単に調べる事が出来る時代です。昔の様に、書籍を調べ手触りや感触も含め勉強し、身に付けるという事が大事だと思います。しかし今はDXの時代です。色々研究されていると思いますが、実体験にしっかり繋がるようDXも上手に使う事が大事だと考えます。

次に多様化についてです。多文化共生、男女共同参画など色々な考えを大事にしようという時代です。図書館も多様化に関わる大事な要素だと感じました。この様な事を総合して磐田市民が豊かに暮らすためにどうしたらいいかを考えていく事が重要であると、本日皆様から色々なご意見、お話を伺う事が出来ました。ありがとうございました。

(委員)

人が繋がることで新たに展開していくと思いますので図書館で行っている講演、講座等について1回限りでなく、次の段階である共感を持って何かを創り出す、共創に繋げていけたらいいと感じます。図書館がもっと積極的に市の動きに関わることができたらいいと感じます。例えば市の施策が分かるよう、町づくりに関わる本をピックアップして配架するなど、市と同じ行政機関として、市民と共に活きている図書館だからこそ出来る事を考えてほしいと思います。

(委員)

図書館が無い町があります。そこは図書館の司書だった方が街づくりのNPO法人を立上げ、社会福祉協議会が事務局になっています。医者や商店街に本棚を設置してあります。人にお勧めしたい本を街中に設置する活動を行っています。この様に図書館が行う活動と、街づくりとして活動を行いたい人達が集まり、図書館とは別の団体が行う活動。図書館がすべてを補うことは難しいため両方が上手に共同出来たらいいと思います。

(事務局)

貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございます。今後見直しをかけながら来年度取り組んでいけるよう進めていきたいと思っています。確かに図書館も時代の流れで変化を求められています。DX、公共施設の在り方など検討課題がたくさんありますので、ご意見を参考にさせていただきたいと思っています。また市民協働というところで、市民の方が何かやりたいという気持ちを起こす、そういう場所になればいいと思っています。引き続き皆様の御協力をお願いいたします。

議事(3) その他(以下、事務局)

連絡事項

- ・任期について(令和7年6月30日まで)
- ・来年度図書館協議会回数について(3回開催予定)

以上で、本日の議事をすべて終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

※以上をもって委員会は終了